

第10回国際園芸展(幕張メッセ)に有機培地水耕・移植機・つるを出品!

隔年開催となる国内最大の施設園芸展が、今年も千葉県幕張メッセで「叡智の結集 - 21世紀農業の展開」のテーマのもとに4月17日～20日の4日間開催され、弊社も出展いたしました。国内外から260社500小間と前回より10社増加となりましたが、総小間数はほぼ同じで、各社とも小間規模を削減したり、実質的な装飾と、世情を反映した姿が印象に残りました。弊社は、有機培地水耕でとまとの高糖度栽培、自動移植機、省力化管理のハンギング栽培「つる」の3点に出展を絞り紹介をさせていただきました。天候にも恵まれ5万人の来場者と盛況でした。展示品は、前回パブリカが多くみられましたが、今回は作目ではトマトと、有機など各種培地・生分解素材

などが目立ちました。韓国、台湾など海外来場者数は、ひとりに比較して大幅に減少している感じで、これも時代の流れかなとも思います。

弊社展示の中で注目を浴びたのは、高糖度とまとでした。来場者に試食もしていただきましたが、「うまい」「コクがある」「キレがある」と、ほとんどの人からどこかのビール会社の宣伝文句のような反応が返ってきました。見事に作っているとの感想が多く、弊社栽培技術に自信を持っていいと再認識した次第です。やってみたい、施設費はいくらか、栽培指導は、販売先は・・・と質問も多く注目度の高さはダントツでした。ハンギング栽培システム「つる」は、サフィニヤが、こうまで大きくなるのかと女性客の注目を集めました。花

の下がフリースペースとして活用でき、景観を楽しむだけでなく、福祉関係施設へのリハビリ機能との連携などの面で関係者の注目を集めました。移植機も、ネギ生産者、他社プラント使用生産者などから熱い質問を浴びせられました。どうやって経営合理化を進めていくか真剣に検討されている姿勢を窺うことができました。また弊社顧客も数多くブースを訪れていただき交流を深めることができました。本当にありがとうございました。紙面を借りてここにお礼申し上げます。

次回再来年の展示には、一段と進歩した機器を持ち込みたいとの思いを強くした4日間でした。

(営業技術 神谷高裕)

